

岡山県下の中学校における軟式庭球の実態調査

小 原 信 幸

I はじめに

最近の岡山県におけるスポーツ界の競技力を国体の記録をもってみることは、客観的妥当性はない、がしかし、数年をへずして全国高等学校総合体育大会（I・H）は、岡山県を主会場に開催されようとしていることは事実である。そこに軟庭関係者として喜びを感じると共に一沫の不安を禁じえないのである。それは数年来の国体の成果を見ることよってのI・Hへの危惧である。

それらの全面的解決策は、正しいスポーツの普及振興と競技力の向上、特にジュニア（中学生）選手の育成強化にまたなくてはありえないと信ずる。

そこで、私は県下中学校における軟式庭球の実態を把握することにより、競技力の向上並びに普及振興の手がかりを得られるであろうと思い、本調査を行ない、若干の考察を試みたので報告する。

II 調査方法

- (1) 期 日 昭和49年1月～2月
- (2) 対 象 岡山県内公立中学校（183校）
- (3) 方 法 別紙調査表を作成し、中体連組織（5地区）に応じ、各中学校へ郵送配布、のち回収した。回収校 123校 回収率 67.2%

軟式庭球部に関するアンケート

岡山県軟式庭球連盟

記入者氏名 _____

中学校	昭和48年度推定進学率 %			部員の推定進学率 %			部長名		
指導者	性, 年令	男・女	満才	指導者の経験年数 年			あれば選手歴		
昭和48年度生徒会予算 円			運動部関係予算 円			軟式庭球部 円			
軟式庭球部	あり・なし	庭球コート	面	庭球部をつくる	予定・希望・見込なし	コートをつくる	予定・見込なし		
庭球部が出来ないとすればその原因									
コートが出来ないとすればその原因									
庭球部員数	1年 男	名:女	名	2年 男	名:女	名	3年 男	名:女	名
練習時間はシーズン中		平均 時間	休日の練習	認めている・いない	認めている条件	無条件・試合が近いとき・教員の参加			
合宿	認めている・認めていない	場所	学内・学外	宿泊日数	日程度	指導者の宿泊	要・不要		
庭球部員に対する学校内の評価			良い・普通・余り良くない			クラブ間における庭球部の評価			良い・普通・余り良くない
評価がよくないとすればどんなことか									
中学校教員大会	是非やれ・やってもらいたい・どちらでもよい				大会を開催すれば		参加する・参加しない		
連盟主催の中学生大会(個人戦)			開いてもらいたい・どうでもよい			開催すれば		参加する・わからない	
若し参加出来ないとしたらどうしてか									
どうしたら一人でも多く参加出来るか									
中学生指導者講習会(中央より講師を招き)			開催を望む・どうでもよい			先生自身参加する意志		ある・ない・あるが出来ない	
参加出来ない理由									
開催するなら	週日・日曜・休暇中		宿泊	可・不可	可ならいつ頃がよいか			月頃	
教育委員会共催が	よい・でなくてもよい・個人の自由参加がよい			中学生だけ集めて		やってもらいたい・もらいたくない			
部担当教員に特別に手当てを考えているか				い る ・ いない					
あればどんな方法か									
連盟への希望				中体連への希望					
部活動運営で悩み、難点があれば列挙して下さい。なおユニークな建設的意見も併記して載ければ幸いです。									

Ⅲ 調査結果とその考察

1. 庭球部をもつ学校の状況

(1) 高校進学率

表2から、高校への推定進学率は非常に高く、一部庭球部員を除き、大学の予備校化している高校への進学が極めて顕著である。

(2) 庭球部並びにコートを設置状況

回答のあった123校の内、庭球部「有」100校、「無」23校であった。このコートがない理由としては、「小規模で全体の生徒数が少ない。運動場（校地）が狭くコートを作る余地がない」が主な理由であった。

なお、庭球部をもつ100校についてのコートの設置状況は、表5の通りで、コートをもたない中学校5校、1面のみのもので19校、2面あるもの60校、3面に及ぶもの14校、更に4面にもわたるもの2校で、その内、公営施設を利用している学校が3校であった。

さらに各学校ともコートの不足を訴え、「コートが無い。コートの増設を希望しているが出来ない」その理由として、ほとんどの学校が、「運動場が狭いから」つづいて「予算的なもの」となっている。

(3) 部（クラブ）費

表6でわかるように、半数以上（62%）の学校が3万円以内の非常に少ない予算で四苦八苦しているようである。なお4万円以上の学校は、必修クラブ費をも含めているのが現状であり、一概には論じられない。とくに、一中学校においてはクラブ費「皆無」とあるのは驚異にあたいすることではある。

けだし、対外試合等の経費は、別途に出されているようで、これらのクラブ費は、ボールを主とした用具代に使われているやに観察される。

（参考までに昭和46年度、岡山県のクラブ費は、平均21,700円、文部省24,400円であった。）

更に、表10から考察したとき庭球部においても地域的偏向がはっきりしており、南厚北薄の状態が著しくみられる。

(4) 庭球部員数

学年別に部員数をみたのが表7である。この表からいえることは、全県的傾向ではあるが、学年が進むにつれて、部員数が逐次減少していることである。このことは、水田氏の言葉を借りるまでもなく、「競技力向上に直結させる時期は中学校過程においては考えられない」という見知から考えて、またさらにスカモン発育系の視野からも、発育盛りにスポーツの断絶現象ということが起きておるのであり、これは大きな問題点である。

なお女子部員だけ5校、男子部員だけの校がみられるのも変則的傾向とみ受けられる。

(5) 学内及びクラブ間の評価

庭球部に対する学校内の評価、すなわち教員側からの評価であるが、表10の通り、良い20%、普通76%、余り良くない3%、クラブ間における相互評価も大体同じようになっている。なお、余りよくない理由は、「練習終了時刻が守られない」が主である。この点をとり挙げたとき学校によって、クラブ活動の終了時間が規定されているのであろうが、中学生の活動心理からうなずけるとはいうものの、未だ、基本的スポーツ理念の徹底した育成がなされる余地があるように思われ、学校教育の指導と人づくりの面から、今後の大きな全人的教育的課題である。

2. 指導と練習の状況

(1) 指導者

表3は、指導者を年代別に見たものであり、表4は経験年数から見たものである。20才代、30才代はさておき、40才代の未経験者2人、指導経験が3年以内の者が10名（40才代の $\frac{1}{3}$ ）に及んでいる。

この結果は、指導者層の薄いことを如実に物語っている。このことから、中学校指導者の講習会を開き、指導者の充実をはかることが急務であることを教えている。

(2) シーズン中1日の練習時間

シーズン中1日の練習時間は表8の通りである。現在の学校教育の形の中では、2時間の練習時間が限度のようであるが何等かの方策で延長が考えられないものだろうか。

(3) 休日の練習

クラブ活動として、日曜日に練習出来る学校は表9の通りである。42校の学校で認められている。なお、原則として認めないのうち、「試合が近いとき」と「教員の参加」があれば認めるという学校をあわせると、半数以上の学校が日曜日等の休日に練習が出来るようになっている。

これらの学校種においては問題点は少ないが、約半数の休・祭日に練習が認められていない学校種の収拾策が問題として浮びあがることになる。彼等はコートを求めてさまようのが現実の姿である。

しかし、現在の県下公営の既設コートの実態から考えて、中学生への開放は難かしいように思われる。

そこで、スポーツ少年団、テニス教室等の組織を通して行なうという方法がある。その点、鏡野中学校が2年前より社会体育の組織として行なっている「鏡野町中学生スポーツ同好会」の存在は参考になる。

さらに合宿について見ると、認めているもの7校で、これらは指導者が必ずついていて2～3日程度の合宿で行なわれているようである。ただし、これらの学校は注目にあたいする先進校の姿である。

3. 中学生指導へのアプローチ

(1) 中学校教員大会

指導者としてある程度の技術を会得していることは、効果的指導をするうえで有意義であると思う。その意味で指導に携わる者の研修的大会を行なうことの是非についてみると、その結果は表11の通りである。必ず実施して欲しい9%、できるならばやってもらいたい19%、どちらでもよい70%、不明2%となっている。

そして、こうした大会を開催したとき、指導者自身参加意志の是非については、参加する47%、参加しない45%、不明8%である。これらからいえることは、消極的ではあるが、約半数近い指導者が教員大会への意欲的参加を意志表示している。このことは、せめて「大会」という行事に参加して、何かを得ようとする指導者の暫進的な実像といえよう。

(2) 連盟主催の中学生大会（個人戦）

現在中学校生徒を対象とした対外競技は3種類のものがある。それは、

- ①全日本大会・中国選手権大会に通ずる各地区予選会——県軟庭連・中体連共催
- ②総合体育大会の為の各地区予選会——県中体連主催
- ③ジュニアブロック軟式庭球大会——社会体育としての軟庭連主催

これらの大会をふまえた上でのアンケートの回答は表12のようである。
別途軟庭連主催として新しく大会を求めている学校58%、どうでもよい39%、不明3%。
そして、中学生の大会を開催すれば、参加さす61%、わからない34%、不明5%となっている。

(3) 中学生指導者講習会

指導者講習会については表13の通りである。開催を希望する74%、どうでもよい24%、不明2%であり、各学校の指導者は、講習会を熱望しているように見受けられる。

これは、指導者講習会と名うったものがほとんどなく、また過去にあったとしても、実際指導に当たっている人々がそれに参画することのむずかしさと、はばまれる要因が数多く考えられることの結果であろう。

しかし、現場で実際に指導に当たられている方々の生の声として大切にしていきたい。

なお、このような講習会を開いたとき、指導者自身参加する意志がある64%、参加しない24%、参加する意志はあるが参加出来ない10%、不明2%という結果になっているが、実績はともなっていない。

さらに開催時期についてみると、週日25%、日曜16%、休暇中56%、不明11%となり、また、何月頃がよいのかの質問に対して7~8月が27%で最も多く、続いて3~4月のシーズン初めとなっている。もし、この講習会を宿泊して行なう場合の参加是否については、可35%、不可52%、不明13%であった。

以上のことから、講習会の方法論については、一考を要するように思われる。

(4) 中学生だけ集めて

直接中学生だけ集めての講習会については表15の通りである。やってもらいたい63%、もらいたくない19%、不明18%で半数以上の学校で、指導性の万全を期し得ないかのようなアンケート結果である。

なお、「もらいたくない」の意見の中に、「参加者のエリート意識を高めることになりかねない」という意見もあった。また、これらクラブ活動は社会体育に移行すべきであるという意見が散見された。

(5) 部担当教員に対する特別な手当について

表16の通り学校管理者として特別な手当を考えている所は、数校にも及ばない。その内、実現をみているものは全県下にわずか1校であった。その具体例をあげるなら、体育後援会を組織し、そこから経費を捻出している。その他は、実現をみていないが、何らかの形で考えようとしている学校であり、その方策を学校以外（社会体育的分野）に求めているようである。

けれど、上記現象は、時流のおもむくところ当然の趨勢であり、過去の聖職的、奉仕的、指導形態では、このましい中学生スポーツ像の成立はありえないように思われる。

4. 教育委員会・中体連との関係

(1) 教育委員会共催

中学生および指導者の行事についての背景に、教育委員会という名称があった方がよいというもの、表14で63%に及び約半数以上の学校で共催を望んでいる。

また、大会参加は各学校自体の自由意志によるという17%は、共催の場合より、色々な手続き、取り扱いに安易性があり、気楽な気持ちで参画出来ることに魅力を感じているのであろう。

5. 連盟への意見

- (1) 指導者講習会を望む。(地域単位で巡回指導をしてもらいたい。)
- (2) 一ヶ所に10面以上のコート施設を望む。(大会がスムーズに開けるように。)
- (3) 社会体育団体の充実(主として中学生対象のテニス教室的なものを含む。)
- (4) テニス用具・用品等の斡旋

6. 中体連への希望

- (1) 講習会の開催を望む。
- (2) 試合の消化に困難という感あり, コート面数(大会が一ヶ所で開ける。)の急増を望む。
- (3) 機会均等という意から大会会場を岡山市に限定せず各地で開催して欲しい。
- (4) 団体戦の問題, 並びに日程と時間の問題等。
- (5) 役員組織を明確にすること。

7. その他の意見

- (1) 指導者の指導時間・指導力不足。
- (2) 部員数に対するコート面数の不足。
- (3) 土曜日の午後, 日曜日等社会体育の組織にまかせたらどうか。
- (4) 勉学とスポーツの両立困難。
- (5) 学校における部(クラブ)活動の教育性と社会性から指導体制の確立と責任体制の明確化等。

Ⅳ ま と め

以上アンケートの集計による考察の結果は, 以下に要約出来ると思う。すなわち,

- ① テニス競技に最も関心を示し出す中学生を, 手ほどきする中学校の指導者講習会の開催によって, まず, 指導者の育成強化をはからなくてはならない。
- ② 中体連と県軟庭連は不離一体のものとして, 競技力向上・普及振興の為に努力すべきである。
- ③ 過去中学生の全国大会で顕著な成果を収めていることに直視し, 何がそうさせたかを考究し, 中学生をとりまく環境の重要性を大切にしたい。
- ④ テニスを志す多くの中学生の練習の場所(コート)の不足からやむなくやめていく姿に接し, 何とか公共施設の増設が得られないものだろうか。
- ⑤ 一部の学校で社会体育の分野として, 中学生を対象にスポーツ活動がなされているが, 今後学校開放の問題と共に, 指導体制を確立して行くことも必要であろう。

以上, わずかな資料から非常に重大な問題を即断することは許されないが, 軟式庭球を新指導要領による全員必修クラブの学校体育の枠内に終わらさないよう, 私は総てのチャンスを生かし, 軟式庭球の正しい普及振興並びに競技力向上に役立ちたいと思う。

なお, 本稿をまとめるにあたり, 幾多のご助言を賜りました, 県軟庭連の原恵二理事長, 安藤俊雄強化委員長に深謝すると共に, 終始ご指導ご関下さいました水田宏中体連軟庭理事長にお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 岡山県教育庁保健体育課 学校体育指導資料 第9号 1972
日本体育協会 体協時報 9月号 1971
日本体育協会 体協時報 12月号 1973
日本体育協会 体協時報 1月号 1974
奥川辰雄 軟式庭球 3月号 1970
奥川辰雄 軟式庭球 5月号 1970
奥川辰雄 軟式庭球 12月号 1970
奥川辰雄 軟式庭球 1月号 1972
奥川辰雄 軟式庭球 7月号 1972
奥川辰雄 軟式庭球 10月号 1972
岡山県スポーツトレーナー委員会 スポーツトレーナー岡山 1月号 1973
岡山県スポーツトレーナー委員会 スポーツトレーナー岡山 2月号 1974
日本体育協会競技力向上委員会編 スポーツトレーナー教本 2級用 日本体育協会 1966

表1 調査対象一覧表

地区	分類項目	配布校	回収数	集計数
1	備前第一	39	24	22
2	備前第二	16	14	13
3	備南	48	28	23
4	備北	40	28	22
5	美作	40	29	20
	計	183	123	100

回収率 67.2% 集計率 54.6%

表2 指定進学率

地区	分類項目	昭和48年度 推定進学率	昭和48年度 部員の進学率
1	備前第一	97.7	99.8
2	備前第二	96.2	100.0
3	備南	94.2	99.3
4	備北	95.3	98.0
5	美作	96.3	98.5
	平均	95.9	99.1

表3 指導者の年代別

年代	地区						計	備考 内女 5人	0 年	1-3 年	4-5 年	6-10 年	11-15 年	16- 年	不明
	1備前第一	2備前第二	3備南	4備北	5美作										
20才代	3	6	8	6	2	25		3	8	5	7				2
30才代	11	5	13	5	3	37			9	5	13	7	3		
40才代	7	6	1	12	12	38	内女 1人	2	10	3	6	4	11	2	
50才代	1			1	2	4		1		2			1		
計	22	17	22	24	19	104		6	27	15	26	11	15	4	

表4 指導者の経験年数

表5 テニス部並びにコートの設置状況

地区	テニス部		コート なし	1面	2面	3面	4面
	有	無					
1備前第一	22	2	3	6	11	2	
2備前第二	13	1		1	10	2	
3備南	23	5	2	4	13	3	1
4備北	22	6		4	14	4	
5美作	20	9		4	12	3	1
計	100	23	5	19	60	14	2

表6 クラブ部費

(単位 千円)

地区	クラブ部費					
	-9	10-19	20-29	30-39	40-	不明
1備前第一	2	4	5	3	6	2
2備前第二		2	5	2	3	1
3備南	1	7	6	2	4	3
4備北	6	6	4	3	1	2
5美作	4	7	6	2	1	
計	13	26	26	12	15	8

クラブ費「なし」1校
46年度 県平均21,700円 文部省24,400円

表7 テニス部員数

女子だけ5校
男子だけ3校

学年	人数						
	0	1-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-
1年	1	19	35	28	9	3	5
2年	2	16	40	25	10	5	2
3年	7	23	35	27	7	1	

表8 シーズン中1日の練習時間

練習時間	0.5	1	1.5	2	2.5	3	不明
学校数	3	16	29	41	3	6	2

表9 休日の練習

表9の認めている条件

地区	項目	認めている			不明	無条件	試合が 近いとき	教員 の参加
		認めて いる	認めて いない					
1備前第一		9	12	1	1	(4) 6	(3) 10	
2備前第二		7	6			1	(2) 8	
3備南		9	13	1		(1) 5	(2) 10	
4備北		10	12			(2) 6	(2) 11	
5美作		7	13			(1) 3	(2) 9	
計		42	56	2	1	(8) 21	(11) 48	

()内の数字は原則として休日の練習を認めないがこの条件の時は認める。

表10 テニス部に対する学校内の評価 クラブ間におけるテニス部の評価 表11 中学校教員大会 教員大会を開催すれば 表12 連盟主催の中学生大会 開催すれば

地区	項目	良い	普通	良くない	不明	良い	普通	良くない	不明	是非やれ	やって	どちら	不明	参加する	参加しない	不明	どうでも	聞いて	聞かない	参加します	参加しません	不明	わから
1.備前第一		4	17	1		4	17	1		2	4	16		11	11		8	13		17	1		3
2.備前第二			12	1		2	10	1		2	1	10		5	7		3	10		11			2
3.備南		7	15	1		6	17			3	8	12		17	5		10	12		13			9
4.備北		3	19			2	20				5	17		9	11		11	11		9			12
5.美作		6	13		1	6	13		1	2	1	15		5	11		7	4		11			8
計		20	76	3	1	20	77	2	1	9	19	70	2	47	45	8	39	58		61			34

表13 中学生指導者講習会(中央より講師を招き) 先生自身参加する意志 開催するなら 宿 泊 いつ頃がよいか

地区	項目	開催を望む	どちら	不明	ある	ない	不明	あるが参加	不明	週日	日曜	休暇中	不明	可	不可	不日月	3-4	5-6	7-8	9-10	11-12	1-2	不明	
1.備前第一		17	5		15	6		1		4	4	11	4	4	14	4	3	2	3				1	13
2.備前第二		12	1		9	2		2		5	3	7		8	5		3	1	5	1				4
3.備南		15	8		15	8				3	5	18	1	9	13	1	2		8	1				13
4.備北		16	5	1	14	4		4		6	2	13	2	9	10	3	1	1	8	1				11
5.美作		14	5	1	11	4		3	2	7	2	7	4	5	10	5	2	2	3					13
計		74	24	2	64	24	2	10	2	25	16	56	11	35	52	13	11	6	27	3				54

表14 教育委員会共催 表15 中学生だけ集めて指導して 表16 部担当教員に特別 手当を考えているか

地区	項目	主催がよい	どちら	不明	個人	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
1.備前第一		13	4		3	2		15	3	4	1	21												
2.備前第二		9	2		2			9	3	1	11													
3.備南		16			6	1		18	3	2	22													
4.備北		11	4		4	3		10	6	6	21													
5.美作		14	1		2	3		11	4	5	19													
計		63	11	17	9	63	19	18	3	94	3													